

10899その他の化学工業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	9~10	A-PET製造機前の作業デスクへ移動しかけたとき、バックの状態の後退してきたフォークリフトに左足側面が踏まれ負傷した。	56	6	222	50~99
2	2017	12	16~17	会社の体育館にて、バスケットボールで5対5の練習をしていた。ディフェンスをしていて、リバウンドの着地時に相手の足の上に乗る、転倒した。	23	2	921	100~299
3	2017	12	9~10	Aラインで充填包装作業をしていた際、台車の上に乗っている2つのポリダル（100L）をリフト台車に1つ移動させた。その後、台車をライン前方へ移動する際に、ポリダルの重心がホールベース外だったので、バランスを崩した台車を立て直そうとした時に（樽の重量で倒れないようにする為）、ビシッという音が腰から聞こえ、傾きかけの台車をまわりの人間に助けてもらった後、その場に蹲り、しばらく動けなかった。痛みが消えない為、しばらく休憩し、その後、病院へ行った。	53	19	611	50~99
4	2017	12	15~16	製造工室の大掃除実施中、部品供給装置から部品を抜き出す際に開口部から内部へ身を乗り出し、開口部に体重をかけて作業した。帰宅後に体重をかけていた肋骨部に痛みがあったため、翌日に医療機関を受診したところ、右肋骨不全骨折と診断された。	52	19	391	50~99
				押出機製造現場において、押出インフレーション機械のエアリングをダイスの上に取り付ける作業をしていた。その際2人				

5	2017	11	14～ 15	<p>でエアリングを持ち上げていたのだが、エアリングは油がついていたため、片方の従業員が手を滑らせてしまい、エアリングは直下した。その結果、エアリングは従業員の足の 上（安全靴のカバーが入っていない部分）に落ち、従業員は負傷した。〔再発防止対策〕 エアリングを取り外す際と取り付ける際にはハンドリフトにパレットを差し、その上にエアリングを置くこととする。</p>	35	4	521	30～ 49
6	2017	11	16～ 17	<p>当社工場内でグラインダーを用いてアルミパイプの研削作業中、左手でパイプを押さえて右手で操作していたところ、パイプからの反動で左手元が弛み、はじかれたグラインダー刃部分が左手親指と示指の間に接触し負傷した。</p>	55	8	153	1～9
7	2017	11	19～ 20	<p>異物（コゲ）の選別作業のため製品を選別台の上で選別していた。選別の終わった製品を製品受け箱に入れようとレバーを操作し選別台を傾けた。製品を左手で製品受け箱に落とし終わり、選別台を元の位置に戻そうとした。その時に左手を選別台の先端に置いたまま、レバーを操作したため選別台に挟まれた。</p>	48	7	391	30～ 49
8	2017	11	14～ 15	<p>ヘルメットの完成品を1個箱に入れ、その上に緩衝材のダンボールを3つ折りにして製品の上から入れる時に肋骨が折れた。（作業中、ポキッとなった。）</p>	54	19	921	100 ～ 299
9	2017	11	10～ 11	<p>アスファルトプラントを稼働する為準備を終え操作室から階段を下りてきた時、雪が残っていた為、滑ってしまい4段目（≒1.2m）から地上に墜落し、受傷したものである。</p>	64	1	413	1～9
10	2017	10	11～ 12	<p>会社工場内で作業中に移動する際、底部の凹部に足が入り、そのはずみで転倒し胸部を強く打った。</p>	64	2	417	1～9
				<p>耐火ボード成型建屋の北側にある材料混合槽の屋根（プラスチック並板張）が台風で穴が開いたので、その屋根（高さ約4m）に上り、応急処置をして立ち上った時、フラつき並板を</p>				

11	2017	10	14～ 15	踏み抜き、約3m下の架台に足から落下した。横倒しになり、更に約1m40cm下の地面に転げ落ちた。頭、肩甲骨、脇腹などを打撲、肩甲骨、肋骨、頭、足に被害を受けた。救急車で医療センターに搬送され、肋骨二本骨折、鎖骨のヒビ、足の裂傷（縫合）が判明した。高所に一人で上り作業しており、安全面の配慮がなかった。	69	1	415	10～ 29
12	2017	10	9～ 10	工場内の抽出場で、抽出槽上部でベルトコンベアにより搬送される原料を、抽出槽へ仕込む最中、抽出槽上部から床部へ降りようとした。体を支えるために手を添えていたが、誤って手が滑り約1m下の床部に落下した。床部にはベルトコンベアを移動するためのレールが敷かれており、その部分で左肩甲骨部を強打し負傷した。	40	1	419	50～ 99
13	2017	10	14～ 15	工場敷地内にて木の冬囲い作業中、脚立に上がろうとした時、前日の雨で地面がぬかるんでいた為、脚立が沈んでしまい体ごとバランスを崩した。その際着地がうまくいかず右足のかかとを骨折した。脚立の高さ約1.5m。	73	1	371	10～ 29
14	2017	10	11～ 12	場内変電所内に設置の仮設プレハブ小屋で、工事用に設置された仮設プレハブ小屋から出るために、開き戸を開けた際、突風でドアが急激に開き、被災者はドアノブを握ったまま外へ引っ張られ、転倒。その際、右手を捻り骨折に至った。当日朝に台風21号が通過したため、被災時は間欠的に強風が残る状態であった。11～12時の瞬間最大風速12m/s、平均風速7m/s。	47	2	714	1000 ～ 9999
15	2017	10	10～ 11	ドラフト内で薬品を反応させる為にメスフラスコの中に試料、試薬及び溶媒を入れ、加熱反応させた後、少し冷めてからメスフラスコに溶媒を加え、転倒混和させたところ、反応が一気に進みメスフラスコが破裂した。破裂したメスフラスコのガラス破片が飛び散り、ガラス片により怪我をした。	49	4	519	100 ～ 299
				A4ライン仕上げ室で乾燥トンネルの動力モーターが停止した				

16	2017	9	16～ 17	為、トンネル内の製品を取り出す作業を行っている最中にトンネル内で温められていた製品が破裂し、製品が頸部に当たり負傷した。	38	15	379	300 ～ 499
17	2017	9	7～8	当社工場内の6号機（3トン反応釜）の洗浄を担当していた従業員が、誤って釜内に転落、ジクロロメタン中毒により死亡に至った。	35	12	514	30～ 49
18	2017	9	14～ 15	工場を移動中に右足首を捻挫。原因は工場の床に湿りがあり滑り易くなっていた事である。	24	2	417	30～ 49
19	2017	9	19～ 20	充填室にて、生産中に上バリを排除するデフラッシャー位置感知センサーが断線し成形機が非常停止した。センサーを交換し再スタートしたが、余った配線が長きたるんでおり、ステンレスの壁に接触していたのが気になったため、安全扉左側の安全装置を無効化して扉を開き成形機内に手を伸ばし、配線を調整していた。その際に、作業着の右袖が引っかかり成形機が前進した瞬間に右腕が引っ張られ、金型油圧シリンダーとステンレスの壁に挟まり手首が折れた。	36	7		100 ～ 299
20	2017	9	10～ 11	室外でコピーをとり自席に戻る際に、途中ファイリングをしている別の作業者の後ろを通ろうとした時に、足に躓きジャンプする様な形で手を広げたまま棚にぶつかり、右肩を脱臼してしまいヒビも入ってしまった。	41	2	417	100 ～ 299
21	2017	9	14～ 15	調合室内の階段を下りる際、ぬれていたの足ですべらせて、腰のあたりを強打して、そのまま転倒した。（階段、真ん中あたりから）両サイドの手すりにつかまっていたので、頭や腕には負傷がなかった。階段は2つの調合釜の間にあり、両釜が洗浄中であったために飛散した水がかかり階段がぬれていた状況である。	49	1	413	50～ 99
				印刷機を使用する前の機器の洗浄作業中、インキをかき取る為				500

22	2017	9	9～ 10	のドクターブレードと呼ばれる刃を拭き掃除していた際、手がすべりその刃で左手人指し指及び同中指を切ってしまった。 (耐切創手袋をうっかり着用し忘れてしまったもの。)	22	8	521	～ 999
23	2017	9	8～9	設備管理室前の道路上で、長さ7m重さ38kgのリップみぞ形鋼を二人で持ち上げ移動中、前方の作業者が後ろ向きで移動した為、足元にあった65A電管につまずき後ろ向きに転倒した。その際持っていたリップみぞ形鋼の先端が股間にあたりケガをした。	66	2	521	50～ 99
24	2017	8	13～ 14	工場内で、ボトルにシュリンクフィルムをかける作業をしているとき、シュリンクフィルムにミシン目を入れる機械の工程があり、ミシン目が上手くつかなかったため、電源を落とさずに機械の中へ指を入れた。右手人差指指先をシュリンクフィルムを押さえるために上下運動している板部分に挟まれた。	24	7	169	100 ～ 299
25	2017	8	16～ 17	石鹼製造ラインにある製箱機の部品交換をするために、ネジを締めようとしたが、締めにくい状態だったので、手を入れたまま寸動で機械を少し動かそうとした。その際に、寸動の操作ではなく起動の操作をしたために、製箱機の中の駆動部で手を挟んだ。	18	7	169	100 ～ 299
26	2017	8	4～5	夜勤作業終了時、工場屋内の階段を2階から1階へ手摺を掴み降りている途中に、足を踏み外してしまい2～3段滑り落ち、お尻付近を階段ステップに打ちつけて負傷すると同時に、手摺を掴んでいた左手も捻ってしまい負傷した。	56	1	413	100 ～ 299
27	2017	7	10～11	工場入口に於いて、製品をウォークリーフォークリフトにて運搬しようとしていた際、フォークリフトを用いて、入口脇にあるパレット(4枚)と段ボールをトラック(4t)に積載作業中の同僚が運転しているフォークリフトに衝突し、左足を負傷した。	61	7	222	100 ～ 299
				工場Dライン耳折機にてトリムカッター部のエア噴出位置を				100

28	2017	7	15~16	変更しようとしたところ誤って稼働中のトリムカッターに指を入れ右手中指と薬指の先端部を切断。	34	7	169	~ 299
29	2017	7	9~10	工場内にて洗浄液の製造中に硝酸の液体を製造槽に投入中、たまたまハンディプロポンの根元（樹脂製）パイプが折れ、右大腿部に液体がかかり、負傷したものである。	50	12	321	—
30	2017	7	15~16	屋外危険物倉庫の室内にて作業中、別の作業を行うために慌てながら室外に出たところ、入り口付近に放置していたハンドリフトに気が付かず衝突した。ハンドリフトは所定の位置ではなく、ハンドル操作部も斜めに傾いた状態で放置されていた。衝突した際、ハンドリフトのハンドル操作部で右脇付近を打ち付けた。	69	3	362	100 ~ 299
31	2017	7	15~16	化粧品製造現場において商品を箱に梱包し、定量を箱に入れてプラスチックパレットへ積む作業をしていた。パレットに箱を積んだ後、梱包場所へ戻る際、通路脇に置いてあった別のパレットの角に右足くるぶしを打撲負傷した。右足をパレットにぶつけた時、右足膝を捻り捻挫負傷した。	38	3	379	100 ~ 299
32	2017	7	14~15	洗剤の製造作業においてリーチ式フォークリフトを運転していた。後進し、フォークリフトより降車時停車が充分でなく常設ラック支柱に右足を挟み骨折した（人差指・中指小指）以下の2つを原因として推定する。・被災労働者は作業中に原料を床にこぼした。これがタイヤに付着、フォークリフトをスリップさせた。・運転席に20Lのボトルを乗せ脚で固定しフォークリフトを操作しており、ボトルまたは足がペダルに触れてブレーキがかかっていなかった。	29	7	222	30~ 49
33	2017	7	9~10	屋外作業場で自動走行車の不具合があり状態を確認するため、自動走行車を停止し、被災者が手動で再起動させた時、直進すると思っていた自動走行車が右旋回して、近くのコンクリート壁と自走行車に挟まれ右足膝下を負傷した。	43	7	222	50~ 99

34	2017	6	10～ 11	製袋機に内剤原料を補充作業のため、原料投入台に上がった。原料補充後、投入台より下りる際にバランスを崩して落下し、転倒した。転倒の際、右手を床面で強打し、骨折に至った。	48	1	169	100 ～ 299
35	2017	6	21～ 22	工場棟1階にて、サンダーに取り付けたカップブラシを用いて機械部品であるスクリーを磨いている作業場所の後方を、トイレから現場内に戻ろうと被災者が通行した。その時、カップブラシのワイヤーが飛んで来て、左眼球に刺さった。本来、この作業中は、その後方を通行してはならず、本人はそれを知りつつも目の辺りを手で覆いながら通行した。ワイヤーは左眼球水晶体にまで達した。	23	4	379	100 ～ 299
36	2017	6	17～ 18	製造現場で10kg入り目の原料（紙袋）を準備用棚の3段目に持ち上げて置いた際、右肩に痛みが発生した。（この時点では治療せず）しばらく様子を見たが痛みがとれない為、病院でレントゲンを撮ったが骨に異常は無かった。その後も改善しない為、別の病院でMRIを撮ったところ、右肩腱が切れている事が分かり、手術が必要と診断された。	47	19	611	100 ～ 299
37	2017	6	11～ 12	液洗工場、自動充填ラインの検品作業中、ロット異常（印字不良）製品を発見し、手直しの為、製品を裏返しにした際、液が充填口よりこぼれ右足太腿にかかり被災した。キャップの緩みや資材不良は確認できず、液漏れの原因は不明である。当該製品は、苛性ソーダ（水酸化ナトリウム）が含まれているが、4.8%と低く、傷病の程度に疑問が残る。	45	12	514	30～ 49
38	2017	6	7～8	当社第二工場南出入口付近にて、少し高所での作業が発生した為、近くに置かれていた150kg入り液体ドラムに登って作業を行っていた際、足を滑らせて落下し、右足脛骨を骨折した。	49	1	611	10～ 29
39	2017	6	11～ 12	溝を掃除しようとグレーチングを持ち上げて手前に引いた際、右手中指がグレーチングと床の間に挟まり受傷した。	33	7	419	100 ～ 299

40	2017	6	14～ 15	工場棟3階包装エリアにおいて、第4包装機に新たに設置した機器の調整を、機器全体を停止した状態で行っていたが、連結機器を再稼働する際の合図に気づかず、調整していた機器の回転部に右手小指が巻き込まれ、負傷した。	35	7	169	100 ～ 299
41	2017	6	13～ 14	生産課小板ライン洗浄硝子受け取り台にて、テスト板で使用する型硝子（610mm×457mm、板厚5mm、重量3.5kg）を左側の台から右側の台にのせ換えていた際、両手で持っていた硝子が右側の台にのせた硝子のエッジ部分に接触し、破損し落下した。落下した際、硝子が左前腕内側の手首付近と中央付近に接触し、切傷した。	19	8	529	100 ～ 299
42	2017	6	18～ 19	200Lドラム原料の金属製封印キャップ（エア―抜き側＝小）をドライバーにて開封中、一度破った封印にドライバーの先端を引っ掛け、力を入れて外そうとした際に、手元が滑って破れた封印が接触し、切傷した。	26	8	521	100 ～ 299
43	2017	6	15～ 16	転倒原因は、目撃者がおらず不明であり、負傷者の回復を待ち確認する。被災者は、工場外階段の2階から1階に向かい下りていた。発見者が大きな物音を聞き1階へ向かうと、被災者が床面に倒れていた。当日の天候は曇り、床面は乾いていた。 (重症頭部外傷、ヘルメット着用)	46	1	413	100 ～ 299
44	2017	5	12～ 13	本社工場で原料ミル出口戻りベルトコンベア下のシュートを清掃中、シュートの下に二輪車を戻す時に、右手人差し指をシュートと二輪車の間に挟んだ。	53	7	224	10～ 29
45	2017	4	16～ 17	会社内にて荷物の移動をウォーキータイプのコーターリフトで行っている際、コーターリフトで後ろに下がっている際、自分は止まったが、コーターリフトが止まらず右足にコーターリフトが乗り上げ、右足甲が圧迫された。	35	7	222	50～ 99
				当社第二工場において、第二成型機投入ベルトコンベアの裏面				

46	2017	4	16~ 17	ローラーに付着した原土を曲尺（50cm×25cm）を使用し除去作業中、曲尺がローラーに巻き込まれ、その曲尺の入隅（角の隅）に左手人差し指が挟まれて負傷した。	52	7	224	50~ 99
47	2017	4	11~ 12	ISOコンテナへの製品積み込み作業終了後、梯子を下りる途中、下から四段目とコンテナ本体の隙間に左足つま先がはまり、バランスを崩して両手を離してしまい約1.5m下のコンテナシャーシの上に転落した。なお、作業時は保護具（ヘルメット、四点式ハーネス）を着用しており、転落時は左手に窒素ブロー用治具を持っていた。	28	1	371	10~ 29
48	2017	4	10~ 11	工場2階石けん製造スペース内の石けん素材（液体原料）を1トンのペッセル（釜）に投入し、100Vハンドブレンダーで攪拌していた。攪拌中にアルコールを表面に噴霧する工程で、通常であればスプレータイプの噴霧器を使用するところ、少量であったため液体のまま投入してしまった。そのアルコールがハンドブレンダーのモーター部に付着し出火し、火傷を負った。	33	11	512	300 ~ 499
49	2017	4	16~ 17	当社工場内においてホースにて製品をタンクに入れる作業中、誤って踏み台（1.2m）よりコンクリート床に転落し背骨及び腰部を負傷した。	62	1	417	1~9
50	2017	3	11~12	化学薬品株式会社にて、薬品の含んだ溶液をポリ容器にて施設の2階へ運ぶ途中に段差に躓き、入っていた溶液の水滴が目・唇にかかり、角膜細胞の損傷、唇の湿疹を負った。	56	19	413	10~ 29
51	2017	3	11~12	ピンテンター式設備のピンを清掃するため、ワイヤーリングブラシの交換作業をテンターチェーンが駆動している状態で行っていた。その際に手がピンに触れ、そのままブラシとピンの間に手を挟まれ、左手甲にピンシートの針が刺さってしまった。	32	7	169	50~ 99
				当社内にて乾燥剤の成型作業中、重量調整の必要が生じたので				

52	2017	3	11~12	打錠を中継して重量調整をしようとした。電源を切ったが、まだ完全に停止しないうちにうっかり左手を重量調整ナットの箇所に入れてしまい、左示指の先端部分をナットと下の鉄板とで挟まれた。	46	7		30~ 49
53	2017	3	12~13	工場内にて廃油回収作業終了後、ドラムヤード現場の最終確認を終え車両に戻ろうとしたとき、ぬかるみで足を滑らせ転倒した。その際、右足首に全体重がかかった状態で足首をひねった。	47	2	416	100 ~ 299
54	2017	3	16~17	被災者は品目切替作業のため、基済サイロから3F タンクに基済を輸送するバケットコンベアの掃除を行っていた。掃除箇所はバケットコンベア下部の3箇所の点検口で行うため、片側が終わり反対側の点検口に移動しようとした際にスクリーンフィーダー微粒排出口付近に後頭部を強打し、頭部及び首を負傷した。	67	3	391	30~ 49
55	2017	3	5~6	飼料庫よりコンテナを持ち飼料を取りに行く途中、凍結路面で転倒し、頭部を強打し受傷した。	53	2	719	1~9
56	2017	3	16~17	当社工場でプラスチック板を機械で加工中、板が想定外の割れ方をし、機械の刃に右手中指・薬指が触れ、第一関節を切断した。	65	8	169	10~ 29
57	2017	2	18~19	汎用旋盤を使用し厚み30ミリの樹脂の板を26ミリになるように切削加工を行っていた。切削加工中にワークの板材が旋盤から外れ作業者の顔に直撃した。作業者は右目周辺を打撲し、また、鼻と眉の間を創傷した。ワークの板材は300ミリ位の六角形の樹脂板（POM）。	22	4	151	50~ 99
58	2017	2	8~9	硫化水素ボンベ（1t/本）を貯蔵所へ搬入しようとして地上を転がしフォークリフトのフォークに載せようとしたが、傾斜地であった為、被災者1人では出来ず、運転者と2人でフォークに載せ、運転者が、フォークをチルトしようとした時、ボン	57	7	319	50~

				べが被災者の方向に微速で動きだした。被災者は、停止させようと正面で押さえたが、不可能と判断し退避しようとしたが間に合わず、ボンベとボンベに挟まれ被災した。				99
59	2017	2	10~11	製品の運搬作業中、通常はフォークリフトで移動させる製品パレットを、フォークリフトが故障していたためハンドリフトにて移動を行っていた。パレットの重さ400kg位を移動していた際、リフトを切り替えるためにハンドルを引き押し返そうとした時に、パレットの重さでリフトが止まらず踏ん張っていた左足側面に乗り上げ負傷した。（安全靴は着用していた。）	47	6	362	50~ 99
60	2017	2	13~14	外部のイベント会場でお客様用の入浴剤の箱（約7kg）を作業テーブルに載せるため、床から持ち上げた際に腰に激痛を感じた。その後も耐えながら箱の解放、お土産袋詰め作業を続けていたが、痛みが増し休憩した。立ち上がりや歩行も困難になったため、ホテルの車椅子でタクシーに乗り病院へ向かった。	49	19	611	1000 ~ 9999
61	2017	2	8~9	弊社工場内の充填室内で、しゃがんで床上の配線類を整理・接続していた。その背後で同様の作業をしていた別の従業員が配線類をくぐらすために作業台の脚の一本を持ち上げた。そのはずみで作業台が傾き、作業台に載せていた圧着機が落下し、当該社員の左肩にぶつかった。	27	4	391	50~ 99
62	2017	2	16~17	当社第二製造工場裏において、洗剤用容器のキャップが入った箱（約横1m×奥行0.5m×高0.7m）を運搬していた際、床の段差に右足を引っ掛けたためバランスを崩し、左膝を床に強打ち、負傷したものである。	57	2	413	30~ 49
63	2017	2	18~19	エージェンシー棟2階原末投入室で、秤の置き場所を決めてテープを貼った後、秤（重さ45kg）を二人で運び、テープ内の置き場所に置こうとした際、ひざを伸ばした状態で作業をしたた	31	19	612	100 ~ 299

				め、腰を痛めた。				
64	2017	2	11~12	当会社支店の工場に於いて、ビニール製の手帳カバーに箔押機（鉄製の熱盤に版をつけ金箔銀箔等にて印刷する機械）を作業中に誤って熱盤と受け台との間に指を挟み、左手の中指と薬指を負傷、骨折した。	36	7	169	10~ 29
65	2017	1	15~ 16	トラック荷台上で作業したあと荷台から降りる際、荷台の異物に足先が引っかかり体勢を崩し、左膝・左肘からアスファルト地面に転倒し、左膝皿部を横折れ骨折した。当初はそれほど痛みは感じず歩けたが、徐々に痛みが増した。	34	1	221	—
66	2017	1	16~ 17	荷造り用計量器の精度確認を行うため、ハンドパレッター（MAX2000kg）で重り（510kg）を運搬する作業を行っていた。計量器に重りを載せた後、ハンドパレッターを引き抜こうとしたときにパレットの一部に当たり引き出しにくかったが、力いっぱい引き抜いた。その拍子に左足を滑らせ、バランスを崩し転倒し、右足靭帯（くるぶしから甲）の損傷を負った。	49	19	911	500 ~ 999
67	2017	1	13~ 14	業務中、地下倉庫に下りようとして、はしごを本来設置しては行けない場所に設置し、右側に傾き約3mの高さから落下した。なぜ安全対策をしている場所に設置しなかったのかは不明である。	72	1	371	10~ 29
68	2017	1	9~ 10	本社工場で、輸入コンテナによる原料搬入の際、コンテナ側面（4面）の高さ2.5mぐらいの位置に貼ってある危険物シールを剥がす作業中、倒れて、後頭部を強打した。倒れた瞬間を目撃した者がいないため、どのような状況の時に倒れたかは不明である。	54	1	371	10~ 29
				クリーンルーム内、ゼラチンリーフカット機Aラインにおいて、加工時に発生する製品の長辺カット屑がギア付近にあるのを見つけ取り除こうとした。初めにエアブローをしたが取				

69	2017	1	0～1	り除けなかったので、右手でエアガンを持ち左手でカット屑を取ろうとしてベルトコンベア駆動ギアに指が巻き込まれた。 カット屑を取り除く際には機械を停止させてから作業を行うよう徹底していたが、それが守られていなかった為、事故が発生した。	39	7	224	30～ 49
70	2017	1	10～ 11	本社敷地内にて、倉庫周りの清掃中、給油所付近の地面が凍結 して足滑り転倒し、地面に手をつき骨折した。	57	2	417	30～ 49
71	2017	1	12～ 13	工場にて、設備の清掃をステップ上で移動しながら行い、ス テップがなくなっているのを気づかず、後方に下がった際に足 を踏み外し、足を捻りながら別のステップに足をぶつけ転倒 し、左第5中足骨を骨折した。	54	1	417	100 ～ 299
72	2017	1	10～ 11	工場1階、アルミ2号機にてフィルムの交換作業中に、フィル ムが落ちそうになり落下するのを防ごうとしたところ、誤って 左手薬指（第4関節）を機械と板に挟み負傷し、腫れてしまっ た。	25	7	169	50～ 99
73	2017	1	16～ 17	当社工場内において、筒状の両面テープの材料（直径30cm、 長さ約110cm、重さ約30kg）を運搬用台庫（高さ約50cm）か ら降ろそうとした際、誤ってずり落としてしまい、右足親指と 人差し指にあたり負傷した。	36	5	611	1～9
74	2017	1	14～ 15	工場内の倉庫でビニールカーテンの滑りが悪いため、それを直 そうと梯子をかけて修理をしていた時、誤って足を滑らせ落下 し、地面に体を強く打ちつけ負傷した。	29	1	371	1～9
75	2017	1	9～ 10	朝に降雪があり、路面の凍結場所が見えない工場敷地を徒歩で 移動中、転倒して頭部を路面で打った。	60	2	417	100 ～ 299
76	2016	12	14～ 15	フィルムリボン加工機にて加工作業中、リーダーテープ貼り付 け後の低速送り作業時に、耳きれが発生した為、修正作業を行 おうとした際、機械稼働状態で復旧作業を行った為、巻込回転	21	7	163	100 ～

				方向に回転していたロールに右手を巻き込まれた。				299
77	2016	12	11～ 12	工場内の中2階の置き場で、発泡スチロール製のブロックを下に降ろす作業をしている時、バランスをくずして足から落下して骨折した。	37	1	418	10～ 29
78	2016	12	8～9	事務所と自転車置場の間の構内通路を歩いて作業場へ向かう途中で、溝の上に敷かれているグレーチングに躓いた。転倒した際に右手で体全体を支えてしまい、右手を骨折した。	62	2	521	30～ 49
79	2016	12	14～ 15	工場内に於いて、ディップスピンコーター加工作業中、ボルト、ネジ類の入ったバスケットをスライド部から取り外す際、無理な体勢で持ち上げた為、腰部を負傷した。	58	19	521	50～ 99
80	2016	12	10～ 11	充填作業を行っていた際、充填が済んだドラムをパレット上で手で転がして運搬している時に、ドラムがパレットのデッキボードとデッキボードの間に引っ掛かった。その際、ドラムのバランスが崩れて運搬者の方に倒れてきたので、運搬者はドラムを倒れてきた方向とは別の方向に押しのけたところ、運搬者とドラムが横倒しになった。倒れたドラムがそのまま転がって、倒れていた運搬者の小指の上に乗ってしまい、左手の小指を骨折した。	31	5	611	10～ 29
81	2016	12	13～ 14	作業場で鉄板1枚を両手で持ち移動中、パレットに躓き転倒した。その際、前歯1本が欠け、胸部を打撲した。	71	2	379	30～ 49
82	2016	12	7～8	更衣室にて作業着に着替えているときに、床にあった作業帽子を立てひざをついた姿勢で手に持ち、立ち上がろうとした際に右ひざに体重がかかった時にグキッと音がして動けなくなってしまった。	48	19	921	300 ～ 499
83	2016	12	21～ 22	不良品対応のための、機械を停止して金型から製品を取り外そうとした際、右横部および右手甲部が金型に接触し火傷、それに驚いた反動で反対側の金型に頭をぶつけ意識を失った。	53	90	164	1～9

84	2016	11	9～ 10	有機粉末を袋詰する作業を行っており、ロット終了ごとに乾燥機下のプラグ弁を清掃する作業中、有機粉末の落下口には金属の回転体があり、清掃時には停止して結晶を剥離してから回転体を回し下へ落とすという作業であるが、今回は急いでいることを理由に回転させたまま清掃を行い、奥に手を入れた際に回転体と指が接触し被災した。	24	7	169	30～ 49
85	2016	11	10～ 11	床から1メートル程の作業台の上に乗し、ホッパーと呼ばれる部分に完成予定の化粧品を入れていた時、作業台から降りる際、段ボールで作った踏み台が倒れた。右足から床に着いた為、右膝に体重がかかり右膝をひねった。	58	1	371	30～ 49
86	2016	11	15～ 16	バグフィルタ2階にある点検口で被災者が点検口の扉を閉めようとした際に、ダスト清掃用に使用し通路に置いてあった鉄パイプに足が躓き、咄嗟に点検口の扉に右手を掛け、その衝撃で扉が閉まり、右手中指を挟み、被災した。	51	7	419	10～ 29
87	2016	10	11～ 12	充填包装ラインにおいて、バンド機に製品が正常に供給されなかった。その為被災者がバンド機手前のローラコンベアを移動させて調整しようとした。この時コンベアを停止させていなかった為、駆動ローラのエンド部分に服が巻き込まれ被災した。	60	7	224	30～ 49
88	2016	10	2～3	工場にて前日夜より業務に従事し、当日午前2時頃に工場近辺を自転車に乗り、巡回パトロール中に意識を失って転倒した。	30	90	999	100 ～ 299
89	2016	10	16～ 17	製品の仕上、梱包、出荷、検査の作業中に出荷レーンに溜まった製品を移動させようとして、フリーローラーを跨ごうとして左足を引っかけて転倒。その際、別のレーンの端部や床面で全身を打ちつけて受傷した。	51	2	417	100 ～ 299
90	2016	10	11～ 12	現場内で資材を取ろうとした時に平坦な床で体勢を崩し転倒した。	62	2	417	50～ 99

99	2016	9	15～ 16	屋内で1F・2Fを往復しながら約500kgの原料を仕込んでいる際に多量の汗をかいたため、手・足などがつる様になった。休憩を取りながら作業を行ったが、終了後には立っていただけなくなり、救急搬送された。	38	11	715	30～ 49
100	2016	9	5～6	工場内で三本ロールミルヘトナーインク原料をバットにてセットする際、作業スペースが狭かった為、原料の入ったバットとバットに右環指を挟んだ。	55	7	391	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。